



横浜市立倉田小学校

幼保小連携推進地区事業推進校

令和4年1月7日

学校だより

“つながり いきいき 倉田っ子”

学校ホームページ URL <https://www.edu.city.yokohama.jp/school/es/kurata>

1月号



奪還

～「倉田〇〇大作戦」～

校長 末松 隆一郎

明けましておめでとうございます。

令和4年が始まりました。新春にふさわしい陽射しの温もりの中、穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。皆様が幸せで健康に満ちた年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

今年の年始も、自他の安全と健康、そして活気ある日常が戻ることを願う中で、それぞれの夢や希望の実現に向けての期待と、新たに忍び寄る不安を抱えてのスタートとなりました。そのような中で、そのような中だからこそ、一本の襷を繋ぐため、仲間を信じ死力を尽くして走る選手達から勇気や力をもらうため、「東京箱根間往復大学駅伝」(箱根駅伝)を、今年も応援していました。毎年往路2区浜松町交差点にて母校・青山学院大学ののぼりを振って応援していましたが、昨年・今年と、感染拡大防止のため、テレビにて熱く応援し、選手達にエールを送っていました。そして今年は、「絶対王者」として昨年4位からの雪辱を晴らし、圧倒的強さで王座を奪還した選手達の走りに、大きな感動とパワーをもらいました。



青山学院大学・箱根駅伝といえば、青学陸上部・原晋監督の「大作戦」が、箱根駅伝の一つの風物詩となっています。原監督は監督就任後2013年頃から、大会に臨むスローガンを「〇〇大作戦」と名付け、チーム哲学・理念の定着、課題の克服、選手達のモチベーション向上等を図ってきました。脚光を浴びたのは2015年91回大会で初の総合優勝をした時の「ワクワク大作戦」でした。優勝候補にまで力を付けたチームが、逆にそれがプレッシャーとなり緊張感が高まっていることを懸念し、「必死に練習してきて着実に力は付いている。最後は応援してくれる皆さんにワクワクしてもらえよう、明るく楽しく、青学らしい襷リレーをしよう！」という思いを込めて名付けたそうです。監督の思いは伝わり、「笑顔」と「明るさ」が選手個々の能力を最大限に引き出し、初の総合優勝、「王者」としての歴史の一步を歩み始めました。2015年以降の代表的な作戦名は、「ハッピー大作戦」(2016年大会)、「エビフライ大作戦」(2016年大学駅伝)、「サンキュー大作戦」(2017年大会)、「ハーモニー大作戦」(2018年大会)、「やっぱり大作戦」(2020年大会)、「絆大作戦」(2021年大会)などがあります。これらの作戦名は、大会前に「作戦命名の作戦会議」が行われ、原監督と学生たちとが話し合っ決めてのこと。

そして今年は、「パワフル大作戦」。自分の力を信じ、守りになることなく、最後まで攻め続け、自分を燃やし尽くす。「パワフル」とは、もともとある力ということだけではなく、「迷ったら攻める」という強い気持ちのことだとも思います。この姿勢が結果歴史的圧勝へと繋がったのではないのでしょうか。また、青学だけでなく、どの大学の選手達からも伝わった強い気持ちと心を燃やす走りは、本当に素晴らしかったと思います。

令和3年度後期後半が始まります。先に見える光は、近づいたり遠ざかったりの状況が続きます。そんな時だからこそ、一人一人がやりたいこと、やるべきことをしっかりともち、それぞれの「大作戦」を心にもち、その実現に向けて強い気持ちをもって行動する時ではないかと思ひます。年度末のまとめ、そして、新年度に向けての準備の時期、私たち教職員も、「倉田 子ども達のため大作戦」の具体を明確にもち、実行していきたいと思ひます。

今年もよろしくお願ひ致します。